



北海道
株式会社 合田観光商事
「授産製品の販売等による
持続的な障がい者支援活動」
事業



株式会社 合田観光商事
代表取締役社長
合田高丸さん

選考理由

障がい者が生きていく上で、経済的自立が重要なことは論を待たない。授産施設で生産される商品の販売を助けようと自社ホールを提供、従業員たちも協力、その売り上げは2023年93万円を超える等、大きく貢献した。さらに授産製品の企画提案会を開催し新商品の開発にも関与。ホール内にアールブリュット・ギャラリーを設けるなど、障がい者独自の美しい製品を通じて、従業員や顧客の障がい者への理解を深めている。自らのホールを活用することで経費負担が抑えられ、活動の持続性の高いことから、他事業者へ障がい者福祉活動の広がりも期待される。

社会貢献活動審査委員会
委員

永井多恵子氏



実現性、継続性の高い
社会貢献活動を目指して
障がい者の喜びと収入に
つながる授産製品の販売

ひまわり青少年育成基金の設立など
CSR活動にも積極的に取り組む

株式会社合田観光商事は、1952年に北海道道東の弟子屈で産声をあげた企業である。お客様に利益を還元するお客様第一主義を掲げ、現在は札幌市に本社を置き、「パチンコひまわり」の屋号で、北海道や東北でホールを展開している。

同社では、企業が社会に果たすべき責任であるCSRにも積極的に取り組み、様々な社会貢献や地域貢献活動を実施している。2018年には一般社団法人「ひまわり青少年育成基金」を設立し、青少年育成に関わる取り組みを開始し、札幌市内の児童養護施設に自転車、 TENT、大型テレビなどを寄贈してきた。また、同基金設立以前から、ホールが立地するエリアにある児童養護施設などに家電製品、日用品、衛生用品、お菓子の詰め合わせなどの寄付を継続的に行っている。これは年1回開催されるファン感謝デーで在庫になった商品や、災害用備蓄として調達しながら未使用だったもの、従業員やお客様、取引先などから寄付してもらった新品・未使用のものなどを選択して、寄付しているものである。

このほかにも、地域清掃活動、地域の祭事・イベントなどへの協賛や運営の手伝い、交通安全キャンペーンへの協賛として、ドライバーや歩行者に向けた各種ノベルティグッズや活動グッズなどの寄贈、献血サポーター登録、AED配置と救命講習などを継続的に行っている。



店内で販売や展示している授産製品とアート作品



店内で授産製品や作品を展示することでお客様の障がい者福祉に対する理解の向上にも寄与

店内での授産製品の販売などで
障がい者の生活の質の向上を支援

さらに同社では、2021年から障がい者に働く機会を作り、自己肯定感を高めてもらうとともに、働く障がい者の工賃を増やして経済的自立や生活の質の向上を図るため、ホールにおいて授産製品の販売や展示を行う取り組みをスタートさせた。これは、札幌市障がい者活動支援センター元気ジョブ、北海道社会福祉協議会、北海道手をつなぐ育成会との連携のもとに行うもので、授産事業所訪問、授産製品の販売などが主な活動となっている。

まず、社会福祉協議会などを通じて就労継続支援事業所へ取り組みの案内を発信し、参加希望事業所向けの説明会を開催、担当従業員と販売戦略を立てたうえで、就労継続支援事業所を見学、その後、授産製品のカタログ作製、製品発注、製品陳列、販売という流れになっている。最初の発信から製品の陳列・販売までは、約5ヵ月を要したという。2023年は、同社から約25名（直接的な業務従事者各店2〜3名、専任者3名程度）、就労継続支援事業所スタッフ25名（事業所各1名）、事業所利用者（障がい者多数）などが参加して行われ、ホールでの授産製品の販売点数は6,263点、売上金額は932,655円になった。

この支援活動はホールという自社施設を活用し、従業員のボランティア参加などにより、経費や負担を抑えた実現性、継続性の高いものであり、他事業者への普及も視野に入れた先駆的な活動といえる。活動が複数の福祉関係団体に認められ、遊技業界が行う社会貢献活動として認知されるとともに、福祉団体から高い評価や信頼を寄せられている。また、授産製品の社内バザーを実施したり、店内にアールブリュット（専門的な美術教育を受けていない障がい者などの芸術）のギャラリーを設置したりすることで、従業員やお客様の障がい者福祉に対する理解の向上にもつながっている。